

☆訪れる人もない山や公園の紅葉が美しい

(写真 31)。日本 3 大磨崖仏のひとつである大悲山磨崖仏が南相馬市小高区にあるが、未だに公開できない。磨崖仏近くの樹齢 1000 年を超える杉の大木の側は《1.191 μ Sv》。

写真 31



☆時間が止まった町。震災、津波、そして原発事故から 2 年 8 ヶ月が過ぎても、全く手つかずのままの状態。

原発事故による放射能で汚染されたがれき処理は国の責任だが、放射能汚染地区のために立ち入りが制限され、瓦礫処理の場所の確保の難しさと重なって何も手がついていない状況で放置されている。同じ津波被災でも岩手県、宮城県の津波被災地と異なった困難さがここにある。

地域を破壊する原発事故による放射能汚染の深刻さを痛感する。南相馬市小高地区では復興の前提となる国が責任を負う除染作業は、まったく見ることがなかった。ここからの復興こそが原発依存型のエネルギー政策を推進してきた政治の至上命題である。

第 2 日目：11 月 21 日（木）仮設住宅訪問と馬場有浪江町長との懇談

（仮設住宅入居者の声を聞く）

☆二本松市に役場ごと移動している浪江

町の、震災後一番はじめにできた「岳下住民センター仮設住宅」にお住まいのみなさんを訪問する（写真 32）。馬場績（いさお）町会議員にご案内いただく。

☆自治会長の小野田さんはじめ 12 人の住民の方と懇談させていただいた（写真 33）。

写真 32



☆ 小野田会長さん

「後これから何年ここで暮らすのか。燃料棒引き出しの不安もある。故郷へ帰れるのか、帰れないのか。どういうコミュニティーをつくるのか。仮設でコミュニティーをつくるという話もある。」

仮設住宅について

- ・ 家の外に水道つけてと要望しても、つくまでに3ヶ月。
- ・ 壁は鉄板。冬寒いし夏暑い。隣の家の冷蔵庫の開け閉めの音が聞こえる。結露がひどい。
- ・ 畳を要望してしいた。風呂の追い炊きも後からつけられた。
- ・ 1月20日頃の寒さ厳しい時期に、窓を開け放して二重サッシの工事が行われた。
- ・ 一人暮らしは4畳半。二人家族以上で4畳半と6畳。物入れがない。押し入れ一つ。これまで、大きな一戸建てに住んでいた方がほとんどで、部屋の狭さや、音が筒抜け状態であることで肉体よりも精神的なダメージが大きい。
- ・ 2014年3月には復興支援住宅が出来上がって移住の予定だった。浪江町として3100戸の要望をやっとこの4月に県に出せた。3700戸つくるとの答弁があったが、郡山市によろやく数十戸着工したばかり。
- ・ 町からのお知らせはフォトビジョンで見られる。
- ・ 復興住宅がなかなかできないようなら、仮設の部屋を広くしてほしい。一人暮らしでも2部屋ほしい。風呂にもトイレにも窓なしで常に換気扇を回している。足の踏み場もない状況。
- ・ 仮設がどんな状況になっているということは、国にとっては「他人事」だ。住んでみなければ分からない。昭和29年の災害救助法に基づいているので作りがお粗末。

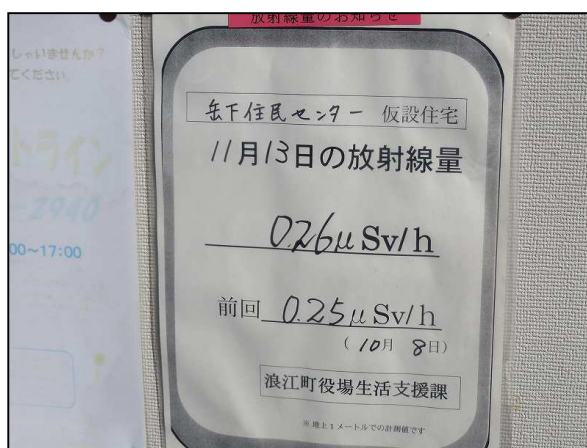
写真 33



写真 34



写真 35



☆馬場町議

- ・ 震災直後の3月12日～15日に一番放射線量の高い地域に避難させていた。スピーディ情報がありながら国は秘密にしていた。
- ・ 「居住制限区域」のところは後4年で上下水道整備、行政サービス、病院を整備して、2019年春から帰宅と言っているが、買い物はどうなるのか。
- ・ もう帰らないという人もいれば、明日にでも帰りたいという人もいる。心も家族もズタズタにされた。
- ・ 11月7日高瀬で測定すると、以前《0.3 μ Sv》だったところが《3.6 μ Sv》になっていた。一律に下がる。
- ・ 議会で東電からの聞き取りを行ったが、敷地境界線では《0.3mSv》は変わらない。瓦礫の片付けで粉塵が舞い上がったのか。汚染水か。
- ・ チェルノブイリは26年経っていて、毎年麦の線量を計っているが食する事はできない線量である。
- ・ この仮設には当初、人工透析の患者が50人くらい避難していた。現在は7人が福島まで通っている。
- ・ 広島の被曝手帳のような健康管理手帳を発行。浪江町で診療歴は一元化して個人データで管理している。

写真 36



☆請戸地区の方

集落 430 戸みんな家が流された。復興住宅入居は、家を失った人が優先なのか。帰りにくても帰れない。議会で繰り返し言ってほしい。残り少ない人生を安心して過ごしたい。

☆馬場町議

- ・ 「原発の子はくんな」と心ない言葉も新しい学校で言われる。
- ・ 登校拒否になっている子もいる。

☆住民から

- ・ 子どもの1人が障害を持っているが、浪江では学校も作業所も自宅から近くにあり、生涯を考えて住んでいたが、今は片道1時間かけて養護学校に通っている。